

2026 年 10 月 15 日

報道関係者各位

株式会社 FRONTEO

FRONTEO、製薬企業向け講演会スライドレビュー 支援 AI システム「KIBIT BackStage」を提供開始

適正な情報提供活動を支える審査業務の効率化とナレッジ蓄積を支援

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下「FRONTEO」）は、製薬企業における講演会スライドのレビュー業務を支援するシステム「KIBIT BackStage（キビット バックステージ）」の提供を開始したことをお知らせします。

「KIBIT BackStage」は、自社開発の方程式駆動型 AI「KIBIT（キビット）」を活用し、製薬企業が主催・共催する講演会などで使用されるスライドについて、各社の審査基準に基づいてリスクのある記載を検出し、レビュー担当者による審査を支援するシステムです。AI による一次レビューによって審査業務の効率化・高度化を図るとともに、レビュー担当者の最終判断とその根拠を記録・共有することで、審査ナレッジの組織的な蓄積、審査ポリシーの明確化・標準化、属人化の解消を支援します。

スライドレビュー&指摘

指摘一覧（レビュー報告書）

類似スライド検知

一次レビュー結果

全10枚を自動チェックし、観点ごとに該当箇所を検知します。下のサムネイルをクリックすると、そのスライドの検知結果が表示されます。

1. 表紙

2. 本日の内容

3. 医薬品Aの特徴

4. 有効性成績

5. 安全性プロファイル

6. 医薬品Bとの使い分け

7. 当院での使用症例

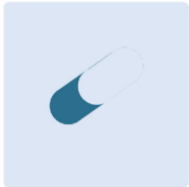
8. 投与量の推移

9. 使用経験のまとめ

10. クロージング

医薬品 A の特徴

- これまででない画期的な新薬であり、既存治療薬にはない有効性が期待されています
- 1日1回投与、忍容性は良好
- 作用機序：アンジオテンシンII受容体拮抗



検知結果（1件）

要確認

誇大表現

「これまででない画期的な新薬であり、既存治療薬にはない有効性が期待されています」

最上級・断定的な表現が含まれます。客観的なデータに基づく記載への変更をご検討ください。

スライド 3 / 医薬品Aの特徴

※本デモは、公知の医薬品プロモーションガイドライン等で一般的に解説されている表現例を参考に作成した架空のスライド・データです。実在の製品・臨床試験データではありません。

※本画面はシステムの機能イメージを示すモックアップであり、実際の画面仕様とは異なる場合があります。

「KIBIT BackStage」画面イメージ（※本画面はデモシステムです）

■製薬企業の講演会スライド審査を取り巻く背景

製薬企業による医療関係者への情報提供活動には、高い正確性と適切性が求められています。厚生労働省の「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」では、販売情報提供活動を適切に行うための社内体制の整備や継続的なモニタリングなどを求めている。講演会で使用されるスライドもその対象となります。

一方、講演会スライドのレビューでは、社内規定や各種ガイドラインとの整合性、記載内容の適切性、引用文献など、多岐にわたる確認が必要です。講演会や勉強会に伴う審査業務とレビュー担当者の負担は増大し、さらに審査には経験や知識に依存する判断も多く、リスクの見落としやレビュー担当者による判断のばらつきをいかに抑えるかが課題となっています。

■「KIBIT BackStage」の特長

「KIBIT BackStage」は、「KIBIT」が講演会スライドを一次レビューして確認が必要な箇所を網羅的に抽出し、それを基にレビュー担当者が最終判断を行う仕組みにより、レビュー作業の効率化と高度化を支援します。また、人による判断結果をシステムの改善につなげることで、継続的な審査品質の向上を図ります。

本システムは、検出した要確認箇所を元のスライドとひも付けて提示できるため、レビュー担当者は「なぜその箇所が検出されたのか」を確認しながら判断することができます。このため、高い正確性と説明責任が求められる審査業務において、判断プロセスのブラックボックス化や担当者によるレビュー基準の不統一を回避するとともに、業務を通じて蓄積した知見やノウハウを自社のナレッジとして活用することが可能となります。

■審査業務を「ナレッジが蓄積されるプロセス」へ

「KIBIT BackStage」は、レビュー担当者個人の経験や暗黙知として蓄積されてきた判断を、審査結果や判断根拠として蓄積し、組織で共有可能なナレッジへと転換します。これにより、審査ポリシーや判断基準の明確化・標準化、担当者間の判断のばらつきの低減、知見の継承や人材育成を支援します。

FRONTEO はこれまで、製薬企業における MR の日報モニタリング支援システムの提供を通じて、適正な医薬品の情報提供活動に関わる AI 活用の知見を培ってきました。今後、これらに「KIBIT BackStage」の提供を通じて得られる知見を掛け合わせるにより、蓄積された情

報の分析を通じたインサイトの可視化や、マーケティング・情報提供活動への活用など、さらなる価値創出を目指します。

FRONTEO は、AI 創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」をはじめとする医薬品研究開発領域での AI 活用と、「KIBIT BackStage」をはじめとする事業活動を支える AI ソリューションの両輪で、研究開発から情報提供活動まで製薬業界を幅広く支援し、その発展と医療への貢献に努めてまいります。

■「KIBIT BackStage」について

「KIBIT BackStage（キビット バックステージ）」は、自社開発の方程式駆動型 AI「KIBIT」を活用した、製薬企業向け講演会スライドレビュー支援システムです。ガイドラインと自社の審査ルールをもとにした一次チェックと、人による最終判断を組み合わせ、審査業務の効率化と、審査ナレッジの蓄積・標準化を支援します。

■株式会社 FRONTEO について URL : <https://www.fronteo.com/>

FRONTEO は、自社開発の方程式駆動型 AI「KIBIT（キビット）」の提供を通じて、日夜、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断を支援し、イノベーションの起点を創造しています。当社独自の自然言語処理技術（日本・欧州・米国・韓国特許取得済）は、汎用型 AI とは異なり、教師データの量およびコンピューティングパワーに依存することなく、高速かつ高精度での解析を可能にします。加えて、解析した情報をマップ化（構造を可視化）する特許技術を活用することで、「KIBIT」が専門家のインサイトにダイレクトに働きかけることができ、近年、「KIBIT」の技術が創薬の仮説生成や標的分子探索にも活かされています。



「KIBIT」の独自技術およびアプローチを通じて、「集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する」理念の実現に向けて、[ライフサイエンス AI](#)、リスクマネジメント（[経済安全保障分野](#)、[ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野](#)、[ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野](#)、[リーガルテック AI 分野](#)）、DX（[株式会社アルネット](#)）の各事業で社会実装を推進しています。

2003 年 8 月創業、2007 年 6 月 26 日東証マザーズ（現：東証グロース）上場。日本、米国で事業を展開。資本金 915,057 千円（2026 年 6 月 30 日時点）。



※FRONTEO、KIBIT、Drug Discovery AI FactoryはFRONTEOの日本および欧州、米国、韓国における商標または登録商標です。

＜報道関係者のお問い合わせ先＞

株式会社 FRONTEO 広報担当

Email : pr_contact@fronteo.com 電話 : 080-3449-6844

＜リスクマネジメント事業に関するお問い合わせ先＞

株式会社 FRONTEO KIBIT ソリューション統括本部

<https://www.fronteo.com/ja/contact/business>